

まだまだ

# 東北復興日記



▶▶ 180

このたびの熊本地震で被害に遭われた地域の皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。地震の影響を連日の報道で見るたび、五年前の忌まわしい東日本大震災を思い出し、心を痛めています。

県のシンボルの熊本城は、

石垣崩落などの被害に遭いま

ベテランママの会代表  
番場さち子さん



## 一番の礎は「マンパワー」

した。形ある物はいつか損な

われることがあります。そ

れは再生も可能ということ

です。お力落としのないよう

お願いします。私たちは津波

が恐怖でしたが、熊本や大分

の皆さまは、いつまでも続く

余震にどれほど不安やご心

労かとお察しいたします。

私たちも、東日本大震災で

避難生活を余儀なくされまし

た。私の避難先の体育館に写

真には、避難初日にコッペ

パンと水一本が配給されまし

た。ただだけのありがた

いことですが、不安な夜には

さついたパンがのどを通らな

かったことを思い出します。

青森から避難所にリンゴが

届いた時には、人数分に満た

ないからと配布を滞る役所の

職員に半分に分けて渡すこと

を促しました。支援物資が公

平に行き渡るよう年齢順に並

ぶことを提案もしました。避

難生活をいろいろと工夫した

ことが思い出されます。

ただ、二週間たち、三週間

がたつと、いつまで続くか予

測がつかない避難生活に不安

が増し、いら立ちを募らせた

ものです。今は気丈でも疲れ

とともにフツと気が抜け、落

ち込むこともあるかもしれま

せん。ため込まないで、泣きたいときには浄化するまで泣くことをお勧めします。

復興の一番の礎は「マンパ

ワー」です。地域の消防団を

はじめ、自治体、警察、消

防、自衛隊、全国からのボラ

ンティアの方々の懸命な支援

で、必ずや復旧、復興すると

信じています。人を支えるこ

とが復興の鍵であると信じ、

被災地福島より、九州の皆さ

まへ共に前へと心からのエー

ルを送らせていただきます。

※この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。

